



平成 30 年 11 月 30 日

各 位

会 社 名 株式会社 トップカルチャー
 代表者名 代表取締役社長 清水 秀雄
 (コード番号 7640・東証 第1部)
 問合せ先 取締役 管理部長 遠海 武則
 T E L 025-232-0008
<http://www.topculture.co.jp>

通期業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、平成 30 年 11 月 30 日付の取締役会書面決議に基づき、平成 30 年 6 月 4 日に公表いたしました平成 30 年 10 月期（平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 10 月 31 日）の業績予想を下記のとおり修正するとともに、特別損失の計上をすることとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 10 月期 通期連結業績予想数値の修正（平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 10 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	35,901	△350	△416	△867	△0.07
今回修正予想 (B)	32,257	△1,132	△1,200	△1,384	△114.58
増減額 (B-A)	△3,644	△782	△784	△517	—
増減率 (%)	△10.2	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 29 年 10 月期)	31,257	307	257	△2,456	△203.24

2. 平成 30 年 10 月期 通期個別業績予想数値の修正（平成 29 年 11 月 1 日～平成 30 年 10 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	35,070	△442	△431	△879	△0.07
今回修正予想 (B)	31,482	△1,197	△1,202	△1,387	△114.78
増減額 (B-A)	△3,588	△754	△770	△507	—
増減率 (%)	△10.2	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 29 年 10 月期)	30,397	224	249	△2,460	△203.64

3. 業績予想修正の理由

当社グループの主軸である蔦屋書店事業において、第 2 四半期以降、更なる企画や販促、商品提案力を強化してまいりました。新店や譲受け店舗の効果もあり、売上高は前年を上回り連結売上高 32,257 百万円（前年同期比 103.2%）となりましたが、レンタルや販売用 CD・DVD などの主力部門の既存店売上高が、想定よりも下回り目標未達となりました。

利益面におきましては、売上高の目標未達による売上総利益の減少が影響しました。経費面において運営の見直しや効率化にも努めましたが、営業利益、経常利益とも計画を下回る見込みであり

ます。また、固定資産の売却及び店舗譲渡に伴う特別利益を 628 百万円計上しましたが、下記の「4. 特別損失の計上について」のとおり特別損失を 365 百万円計上することにより、親会社株主に帰属する当期純利益も予想を下回る見込みであります。

4. 特別損失の計上について

当社は、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、収益性が低下している店舗について今後の売上計画を精査し、回収可能性を検討した結果、固定資産に対する減損損失 365 百万円を特別損失に計上する見込みであります。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以上